

## 水球のまち柏崎 ～この10年のまとめと考察～

代表発表者：奥 一生（新潟産業大学 経済学部 経済経営学科 2年次）  
加藤 未来（ ” ” ” ” 文化経済学科 2年次）

地域理解ゼミナールⅣ 地域スポーツ分野・指導教員：佐々木 洋輔  
（新潟産業大学経済学部助教・水球部監督／ブルボンKZ コーチ）

キーワード： 水球のまち柏崎，ブルボンウォーターポロクラブ創立10周年，柏崎市役所「水球のまち推進室」，東京五輪2020，ホストタウン事業，セルビア共和国



小学校水泳授業サポート事業

### 【背景】

新潟県柏崎市は、「水球のまち」の愛称があり、世界からも、“Water polo Town Kashiwazaki”として注目を集めている。2010年に結成されたブルボンウォーターポロクラブ柏崎は、2020年で創立10周年を迎えた。この度の「柏崎に関する研究発表会」においては、柏崎市民の方々に、水球のまちについてより深く理解していただけるよう、直近10年間の柏崎市の水球関連事業をまとめ、発表する。

### 【方法】

新潟産業大学は、「地域に学び、地域を起こす」というスローガンを掲げ、教育活動を行っている。新潟産業大学1・2年次においては、「地域理解ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」という必修科目が2019年より設置されている。1年次は柏崎市について広く学び、フィールドワークで体験学習をし、また、2年次においては、①地域スポーツ・地域観光分野、②地域企業経営分野、③地域経済政策分野、④地域文化分野、⑤地域農業・6次産業分野、⑥コミュニティまちづくり分野のうちの興味のある分野について調べ学習を行っている。

大学2年次に地域スポーツを選択した18名の学生においては、5つのテーマの元、グループに分かれて調べ学習を行った。テーマは柏崎市水球のまち推

進室の掲げる3つの目標と、ブルボンウォーターポロクラブ柏崎が掲げる4つの目標を参考にし、①事業目標の考察、②水球関連のイベントの考察、③東京五輪ホストタウン事業の考察、④地域の青少年育成に関する考察、⑤トップチームの強化に関する考察の5つを学生が主体的に設定した。各テーマにおいては、これまでの地域スポーツクラブの経費や行政支援について学習しつつ、これからの取り組みについても意見をまとめた。発表会では、学生が調べてまとめた内容を軸に、情報を追加して発表する。

### 【水球のまち柏崎の変遷】

1962年	水球チームの発足（柏崎高等学校）
1964年	創部3年目に全国大会で優勝
1965年	全国大会で優勝し、連覇達成
1968年	オリンピック輩出（矢島秀三氏；メキシコ五輪）
1972年	オリンピック輩出（矢島秀三氏；ミュンヘン五輪）
1991年	ジュニアチームの活動を開始
2009年	新潟国体（2巡目）で4位入賞
2010年	ブルボンウォーターポロクラブ柏崎結成
2012年	日本選手権で優勝
2013年	柏崎市で日本選手権を開催
2015年	新潟産業大学水球チーム（男女）とジュニアチームとブルボンKZ（社会人男女チーム）が統合して活動開始
	高校男女の全国大会の誘致に成功（柏崎潮風カップ；以後毎年開催）
2016年	オリンピック輩出（菅井翔太氏、志水祐介氏、保田賢也氏、棚村克行氏；リオ五輪）
2017年	柏崎市役所に水球のまち推進室設置
	事務局の一般社団法人化
2018年	日本選手権で優勝し、凱旋パレードを実施
2019年	柏崎祇園祭に水球御輿で参加
	東京五輪プレホストタウン事業の成功
2020年	クラブ創立10周年